

---

# ゆりの花

水科代利

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ゆりの花

### 【Nコード】

N4480BA

### 【作者名】

水科代利

### 【あらすじ】

ふにゃふにゃ短編、第二弾です。

百合の花、一輪。

窓辺で揺れる。

雪のように白い花の入った花瓶はガラス製の小さなもの。  
傍に座って眺めるあの子。  
かわいいかわいいあの子。

アーモンド型の瞳。

ぷっくりとした唇。

白い陶器のような肌。

折れてしまいそうに細い腕。

ゆらゆらと風に揺れるポニーテール。

あの子が、こちらを向いて微笑んだ。

百合のむせかえるような香りが風に乗って届いた。

「枯れちゃうのかな……」

汚れを知らない清らかなあの子は、小さな声でいった。

「この百合もいつか枯れちゃうし。私もいつか枯れちゃうんだ……」

「哀しいの?」と訊くと。

「……怖いです」

何に怯えてるの?

「うちは枯れないよ。一緒にいられる間はね」

「?」

「人が枯れてしまうのは、誰かと離ればなれに引き剥がされて、心

が泣くことすら出来なくなった時だよ」

そういうと、あの子は少し笑って、また百合の方を見た。

「あなたも誰かと引き剥がされたのね。私の傍で生きていく?」

かわいいあの子の言葉に、百合の花はこくりと頷いたように見えた。

あの子は百合と同じ。

白く美しい、清らかな光。

(後書き)

やっぱり GARNET CROWから離れられない!!

百合と由利っぺ。

一時期 この二つを並べて絵を描いてました。  
絵になるんです(〇^v^〇)(笑)

感想お待ちしてます

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4480ba/>

---

ゆりの花

2012年1月12日00時49分発行